

おたふくかぜワクチンを接種される方へ

●おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）とは

おたふく風邪ウイルス（ムンプスウイルス）によって引き起こされます。ウイルス感染後、2～3週間の潜伏期を経て、両方または片方の耳下腺（耳の下からほほにかけて）がはれます。はれは痛みますが、赤くなったりはせず、3日くらいでピークを迎え、1週間から10日程度で消失します。その他の症状としては、発熱が多く、頭痛、倦怠感、食欲低下などもあります。感染しても症状が出ない方が30～40%います。

合併症としては、無菌性髄膜炎、難聴（多くは片側性で回復は見込めない）、脳炎、膵炎などがあり、思春期以降にかかると精巣炎や卵巣炎をおこすこともあります。

●おたふくかぜワクチンの効果

おたふくかぜワクチンを1回接種した人のうち、約90%の人に免疫ができ、おたふくかぜにかからなくなったり、かかっても軽くすんだりします。

●予防接種を受けることができない方

- ①明らかに発熱している方（接種前体温37.5℃以上）
- ②重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ③ワクチン成分によってアナフィラキシーをおこしたことが明らかな方
- ④明らかに免疫機能に異常がある病気をもっている、または副腎皮質ステロイド剤や免疫抑制剤の投与を受けている方
- ⑤上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある方

アナフィラキシーとは…

通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性じんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと

●予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気、発育障害など基礎疾患のある方
- ②予防接種を受けた後2日以内に発熱のみられた方や全身性発疹等のアレルギーを疑う症状があった方
- ③過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- ④過去に免疫不全の診断がなされている方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑤ワクチン成分によってアレルギーをおこすおそれのある方

●おたふくかぜワクチン接種後の注意

- ①接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医療機関内で待機しましょう。
- ②接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③接種後4週間は体調に注意しましょう。接種後、腕のはれが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④おたふくかぜワクチンの接種後、異なる種類のワクチンを接種する場合には、27日間以上の間隔をあける必要があります。
- ⑤接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ⑥接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。

●おたふくかぜワクチンの副反応

注射部位の症状（赤み、はれ）、発熱や軽度の耳下腺のはれ、発疹、じんましん、かゆみを認めることがありますが、これらは通常、数日以内に自然に治るので心配はいりません。重い副反応として、非常にまれですが、ショック、アナフィラキシー様症状、無菌性髄膜炎、急性散在性脳脊髄炎、脳炎、脳症、急性血小板減少性紫斑病、難聴、精巣炎の報告があります。

接種から2～3週間後に、頭痛、嘔吐などがみられた場合は、ワクチンによる髄膜炎発症の可能性があるので注意しましょう。

接種後、高熱などの異常がみられる場合は、医師の診察を受けましょう。

●健康被害の救済について

佐伯市では、今回の接種により、万が一健康被害が生じた場合には、佐伯市が加入している全国市長会の予防接種事故賠償補償保険により給付を行います。独立行政法人医薬品医療機器総合機構による、「医薬品副作用被害救済制度」もあります。支給額は予防接種法に基づく救済とは異なりますので、詳細については給付申請の必要が生じた場合は医師や佐伯市役所健康増進課にお問い合わせください。